

1 児童処遇状況

・ 事業実績

【定員 95名 暫定83名】

入所定員	95名	延人員	1140名
平均入所数	67名	延入所数	804名
入所率	70.5%		

§ 入所児の年齢別調

	平成22.3.31			平成23.3.31		
	男	女	計	男	女	計
幼児	10	6	16	9	6	15
小学生	16	7	23	17	11	28
中学生	8	7	15	11	5	16
高校生	6	3	9	4	6	10
合計	40	23	63	41	28	69

§ 入所児（理由別） H23.3.31現在

措置理由	人数
父母の死亡	2
父母の行方不明	4
父母の不和	0
父母の拘禁	3
父母の入院	10
父母の就労	6
父母の性格異常・精神障害	0
父母の虐待（放任）	8
（身体的）	6
（心理的）	0
（性的）	0
養育拒否	1
破産等の経済的理由	5
不登校	0
その他	24
合計	69

*措置理由の内訳については、児童票の養護内容欄に記載されている分の集計です。

§退所人員（理由別）調

	父のみ	母のみ	両親	その他	計
家庭引取り		5			6
他施設へ					
進学（専門学校）		1	1	2	1
就職（行方不明）	1	1			2
その他		1			3
合計	1	8	1	2	12

・ 帰省状況

・ 夏休み（8月12日～15日を中心に10日以内）

8月13日在籍数 70名
 ○お盆里親 6名 9% 8月12日～15日
 ○帰省児童 34名 48%
 ○居残児童 30名 43%

ロ、正月（12月30日～1月3日を中心に10日以内）

12月30日在籍数 73名
 ○里親 2名 3%
 ○帰省児童 36名 49%
 ○居残児童 35名 48%

(3) 入所児童の進路・進学状況

①高等学校卒業 男子 3名 ・ 女子 0名
 就職 グリーンホーム株式会社 男子 1名
 就職 福岡運輸株式会社 男子 1名
 進学 九州国際大学 男子 1名

②箱崎清松中学校卒業 男子 3名 ・ 女子 3名
 高等学校進学 福岡魁誠高等学校〈総合学科〉 男子 2名
 中村学園高等学校〈普通科〉 女子 1名
 精華女子高等学校〈普通科〉 女子 1名
 博多高等学園 女子 1名
 その他（一時保護） 男子 1名

③博多幼稚園

年中 男子 2名 ・ 女子 1名
 年長 男子 3名 ・ 女子 2名

(4) 年間行事

月	行 事 内 容	月	行 事 内 容
4	部屋移動 幼稚園入園式 小学校入学式 中学校入学式 高等学校入学式 中学校自然教室	10	芋掘り招待 アイススケート招待 柳田神社七五三お祝い 那の津ライオンズクラブとの交流会 福岡西ローターアクトクラブとの交流会
5	全日本司厨士協会バイキング食事会 ライオネスクラブとの交流会 宮松小学校との交流会 箱崎清松中学校との交流会 箱崎清松中学校体育会 小学5年生自然教室	11	アイススケート招待 もちつき交流会 筑後川ふれあい駅伝大会
		12	院内クリスマス会 幼稚園もちつき大会 校区クリスマス会
6	福岡市児童福祉施設球技大会 校区ソフトボール・ドッチボール大会 宮松小学校体育会	1	初詣 つばさ合唱団合宿
7	施設自然体験学習	2 2	校区餅つき大会 校区親子ドッチボール大会 つばさ合唱団演奏会 私立高校入試 ポーリング大会
	施設自然体験学習 焼き肉招待 食文化の会招待 ふれあいお盆里親行事 校区夏祭り 児童面接		
8		3	公立高校入試 院内バスハイク 卒院・進級お祝い会 幼稚園卒業式 小学校卒業式 中学校卒業式 高等学校卒業式 ★毎月1回誕生日会、避難訓練実施
9	つばさ合唱団合宿 西鉄招待 幼稚園運動会 箱崎放生会見学		

(5) 入所児童の活動状況について

子どもたちは、スポーツ面や文化面において意欲的に取り組んでおり、数多くの成果を挙げています。

- ・福岡市児童福祉施設球技大会 ・野球の部 準優勝
 - ・福岡市児童福祉施設球技大会 ・バレーボールの部 準優勝
 - ・筑後川ふれあい駅伝大会 ・駅伝の部 7年連続優勝
 - ・その他駅伝大会、マラソン大会に参加し、多数入賞
 - ・月1回の奉仕活動で地域のごみ拾いに取り組んでいます。
- (平成17年10月には福岡市長より表彰を受ける)

2 職員の処遇状況

(1) 職員配置実績

区 分	23年度 配置数 (H23.4.1)	22年度 配置数 (H22.4.1)	増 員
施設長	1	1	
次 長	1	1	
主任指導員	1	1	
主任保育士 (FSW兼任)	1	1	- 1
		1	
男子小学生部	3	3	
グループホーム	1	1	
男子中高生部	3	3	
女子部	5	6 (1)	- 1 (- 1)
幼児部	4	3	+ 1
昼間保育	4 (4)	2 (2)	+ 2 (+ 2)
処遇職員計	22 (4)	21 (3)	+ 1 (+ 1)

調理部	6 (1)	5	+1 (+1)
心理士	1 (1)	1 (1)	
事務部	2 (2)	2 (2)	
嘱託医	1 (1)	1 (1)	
合計	34 (9)	32 (7)	+2 (+2)

【備考】配置数の()内は非常勤で、内数です。

※H23年度は、サブチーフとして被虐待児個別対応職員1名、学習指導担当職員1名を配置する。

(2) 正規職員の退職と採用状況

- ア. 退職者 2名(平成22年度内に退職した職員数)
- イ. 採用者 2名(平成22年度内に採用した職員数)

3 施設の運営状況

平成22年度は、83人の暫定定員でスタートした。

措置費取入減が予想され、節約に努めると共に、年度途中の職員の欠員は補充しないことを年度初めに職員に周知した。(幸い年度途中の退職はなかった)

4月は59人で始まったが、幼児・学童ともに入所が続き、年間を通しては70人前後で推移した。

途中に単価改定があったり、3歳未満児の入所などから取入減はほとんどなく、若干の黒字で終えることができた。

年度当初から、男子部を中高生部と小学生部に分け、グループケアを独立させ部とした。幼児部・女子部・調理部と計6部体制として、それぞれにチーフを置き、部内会議の充実を図った。

また、幼児の増加状況から、嘱託職員を採用し、院内昼間保育室(ひまわりルーム)を開設し、10時から15時まで年少児童の保育にあたった。

野口理事の協力をいただき、年間を通して毎月の院内研修において、スーパーバイズをいただいた。

子どもたちの生活も安定を見せ、就職・進学も高校受験に失敗した一人(5月就職)を除いては希望が叶えられた。

体罰等に関する市のからの報告事項は全てクリア出来たことが確認され、3月31日付けの報告書を以て終了する旨回答があった。

(1) こどもの権利擁護と自立支援

○こどもの支援について

こどもの支援に当たっては、こどもの権利擁護と自立支援のために、次のような重点方針によりこどもの支援を行った。

(ア) 正しい基本的生活習慣を培い、節度ある態度を育てる。

(イ) 社会に出たとき信頼され自立できる人間、ひとの痛みがわかる人間、ひとに感謝する気持ちを持てる人間の育成をはかることを自立支援の基本とする。

(ウ) こどもの個別状況に応じた支援を通して愛着形成と自らを認める自尊感情の一層の確保・増進を図る。

(エ) スポーツを通じた心身の鍛錬により、辛抱強さ、集中力、やる気や向上心を培う。

(オ) 学力の向上のため、職員による学習指導を強化すると共に、学習塾の活用を図る。

(カ) 夢を持てるこどもを育てる。

(キ) 処遇職員と心理士の連携により、こどもの情緒の安定・改善を図ると共に、処遇職員のこどもの行動理解・支援技術の向上を図る。

(ク) こども用図書の見直し・充実を行う。

(2) 良質な職員の確保と育成

真にこどもの養育に情熱と愛情を持てる職員を確保・育成するため、次のような事を行った。

(ア) こどものより良い支援を行うには、職員の資質、支援技術等の向上を図る必要があるため、職員研修には積極的に取り組んだ。施設内における職員研修は毎月行い、福岡市乳児院児童養護施設協議会や福岡県・九州・西日本・全国の養護施設協議会等が主催する職員研修に多数の参加をさせた。

(イ) 良質な職員を確保するため、福岡県社会福祉協議会の人材センターやハローワーク等を通じた公募による職員採用を行った。

(3) 居住環境や職員の執務環境を保持・増進

こどもたちのより良い居住環境や職員の執務環境を保持・増進するために、主に次のことを行った。

(ア) 設備の点検と修繕(エアコン室外機大規模修理等)

(イ) 屋外倉庫購入(入所児童用記録書類、計算書類等の保管倉庫)

(4) 施設運営の透明化の推進

(ア) 広報誌の発行

福岡育児院の広報誌「ふれあい」第6号を7月に発行し、保護者、地域の方、関係機関等に配布した。

(イ) ホームページの充実

施設の運営・経営をより透明化するため、財務諸表を公開し、苦情解決委員会の第三者委員の氏名・電話番号・住所をホームページに公表している。

また、こどもたちのスポーツ活動等の生活状況も掲載し、入所児童に対する理解をいただけるように努めている。

地域との連携を深めていくためにも、先ずは福岡育児院の状況をお知らせすることによって、福岡育児院を身近に感じていただくように努めている。今後も、最新の情報提供を迅速に行うようになお一層の推進を図る。